XDR (eXtended Detection and Response)
ESET Inspect 旧バージョンから
ESET Inspect on-prem バージョン 3.2 への
バージョンアップ手順書

第 1 版

2026 年 10 月 26 日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

改訂履歴

版数	発行日	改訂履歴
第 1 版	2026 年 10 月 26 日	初版発行

目次

1. はじめに 4
2. 本書における構成の前提 5
3. バージョンアップの流れ 7
4. データベースのバックアップ【EI on-prem 側作業】 8
5. MySQL のバージョンアップ【EI on-prem 側作業】 14
6. EI Server のバージョンアップ【EI on-prem 側作業】 22
7. EI Connector のバージョンアップ【EP on-prem 側作業】 32

1. はじめに

○ 本書は、XDR (eXtended Detection and Response)「ESET Inspect on-prem」をご利用のお客さま向けに、旧バージョンから ESET Inspect on-prem V3.2 へバージョンアップする手順を説明したものです。
○ 本書は、本書作成時のソフトウェア及びハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能及び名称が異なっている場合があります。また本書の内容は、将来予告なく変更することがあります。
○ 本書内における略称は以下の通りです。

略称	正式名称
EI on-prem	ESET Inspect on-prem
EI Connector	ESET Inspect Connector
EP on-prem	ESET PROTECT on-prem
EM Agent	ESET Management Agent
EES	ESET Endpoint Security
EEA	ESET Endpoint アンチウイルス
ESSW	ESET Server Security for Microsoft Windows Server
MSSQL	Microsoft SQL Server
SSMS	SQL Server Management Studio

○ 本手順書の一部またはすべてを無断で複写、複製、改変することは、その形態を問わず禁じます。

2. 本書における構成の前提

以下の構成を前提として、旧バージョンから EI on-prem V3.2 へバージョンアップする際のフローや注意点を記載しております。

			バージョンアップ前 (Version)	バージョンアップ後 (Version)
サーバー (Windows Server 2019)	EI on-prem	EI Server	旧バージョン	**3.2**
		MySQL の場合	旧バージョン	**8.4**
		MSSQL の場合	MSSQL 2017 以降	**MSSQL 2017 以降**
		ESSW	旧バージョン	**10.0 以降**
	EP on-prem	EP Server	旧バージョン	**11.1 以降**
		ESSW	旧バージョン	**10.0 以降**
クライアント (Windows 11)	EI Connector		旧バージョン	**3.2**
	EES/EEA		旧バージョン	**11.0 以降**
	EM Agent		旧バージョン	**11.2 以降**

※EI Server のインストールには、64 ビット Microsoft Visual C++再頒布可能パッケージのインストールが必要となります。
※システム要件の詳細は以下をご確認ください。
https://help.eset.com/ei_deploy/3.2/ja-JP/system_requirements.html

注意事項

バージョンアップ作業を始める前に以下の要件を満たしていることを確認してください。満たしていない要件がある場合は、**必ず要件を満たす環境にしてからバージョンアップ作業を開始してください**。

(1) EP on-prem V11.1 以降を利用していること
(2) 管理している各端末では EM Agent V11.2 以降を利用していること
(3) 各クライアント端末では EES/EEA V11.0 以降、ESSW V10.0 以降を利用していること
(4) MSSQL をご利用の場合、「手順 4.2.2 MSSQL のバックアップ取得」時に SSMS を使用すること

※ あわせて下記もご確認ください。
https://eset-info.canon-its.jp/files/user/pdf/manual/ei_v32_readme.pdf

※　EES/EEA/ESSW のバージョンアップについては以下のサポートページをご参照ください。

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/160?site_domain=business

※　EM Agent のバージョンアップについては以下のサポートページをご参照ください。

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/19162?site_domain=business

オンプレミス型セキュリティ管理ツールのバージョンアップについては以下のサポートページをご参照ください。

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/151?site_domain=business

3. バージョンアップの流れ

旧バージョンから EI on-prem V3.2 へバージョンアップを行う流れは以下の通りです。

4. データベースのバックアップ【EI on-prem 側作業】（P8）

・バージョンアップ作業を開始する前に、データベースのバックアップを取得します。

4.1 EI Server のサービス停止

4.2.1 MySQL のバックアップ取得

4.2.2 MSSQL のバックアップ取得

5. MySQL のバージョンアップ【EI on-prem 側作業】（P14）

・データベースのバージョンアップを実施します。

5.1 MySQL のバージョンアップ

6. EI Server のバージョンアップ【EI on-prem 側作業】（P22）

・EI Server のバージョンアップを実施します。

6.1 EI Server のバージョンアップ

7. EI Connector のバージョンアップ【EP on-prem 側作業】（P32）

・各クライアント端末の EI Connector のバージョンアップを実施します。

7.1 クライアントタスクによる EI Connector のバージョンアップ

注意事項

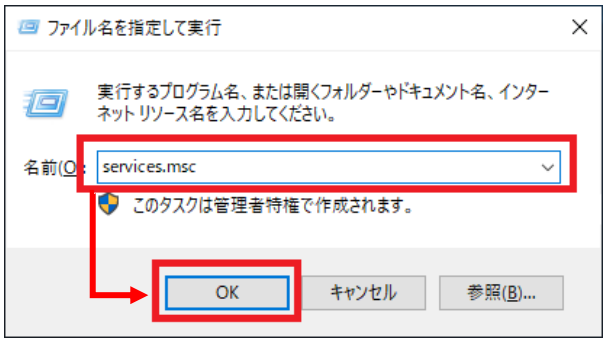
・データベースのバックアップを行う際、一時的に EI Server のサービスを停止させます。サービスが停止している間はログの収集は行えませんが、サービス起動後に EI Connector が保持していたログが EI Server に送信されます。

4. データベースのバックアップ【EI on-prem 側作業】

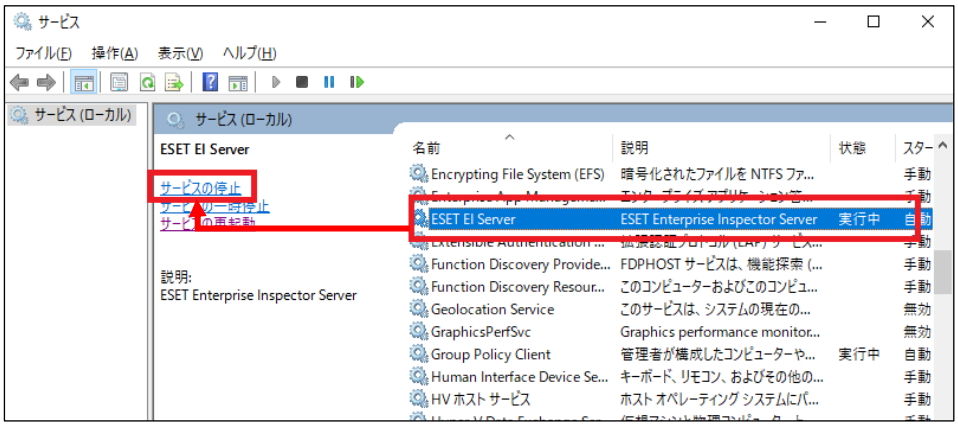
手順 4.2 以降ではご利用のデータベースの種類によってバックアップの取得方法が異なります。

4.1 EI Server のサービス停止

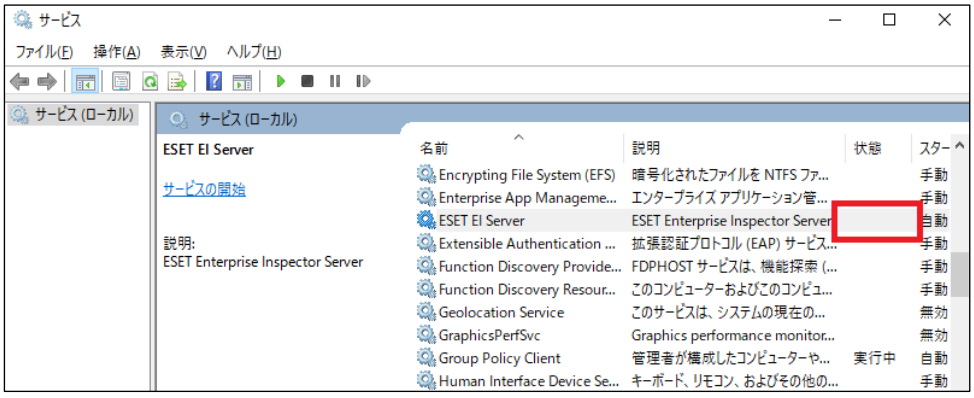
(1). EI Server が稼働しているサーバーにログインし、「Windows キー」＋「R」でファイル名を指定して実行させるウィンドウを開き「services.msc」と入力し、「OK」をクリックします。



(2).「ESET EI Server」サービスを選択し、サービスの停止をクリックします。

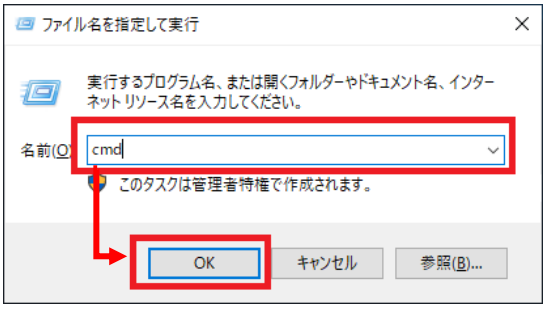


(3).「ESET EI Server」サービスの状態が空欄になったことを確認します。



4.2.1　MySQL のバックアップ取得

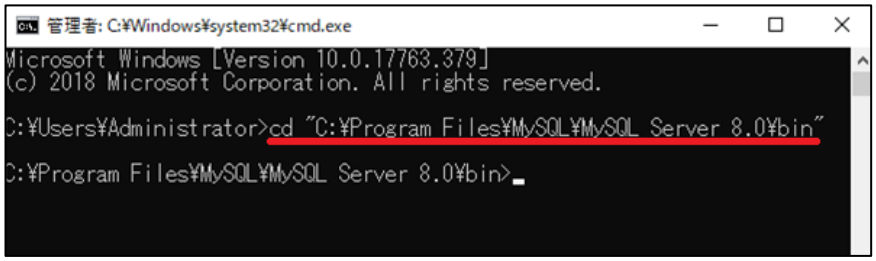
(1). 「Windows キー」+「R」でファイル名を指定して実行させるウィンドウを開き「cmd」と入力し、「OK」をクリックします。



(2). コマンドプロンプトの画面にて、以下（ア）～（ウ）の操作を行い MySQL のバックアップを取得します。

(ア) [cd "C:¥Program Files¥MySQL¥MySQL Server 8.0¥bin"]と入力し、Enter キーを押下します。

※MySQL のバージョンは現在利用しているバージョンに読み替えて実施ください。

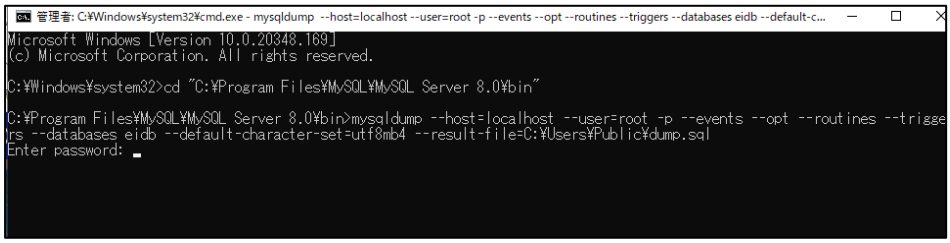


(イ) [mysqldump --host=ホスト名 --user=ユーザー名 -p --events --opt --routines --triggers --databases データベース名 --default-character-set=utf8mb4 --result-file=出力先ファイル名]と入力し、Enter キーを押下します。

※データベースのユーザー名は EI Server のインストール時に設定した値です。

※データベース名は、導入手順書通り設定している場合は「eidb」です。

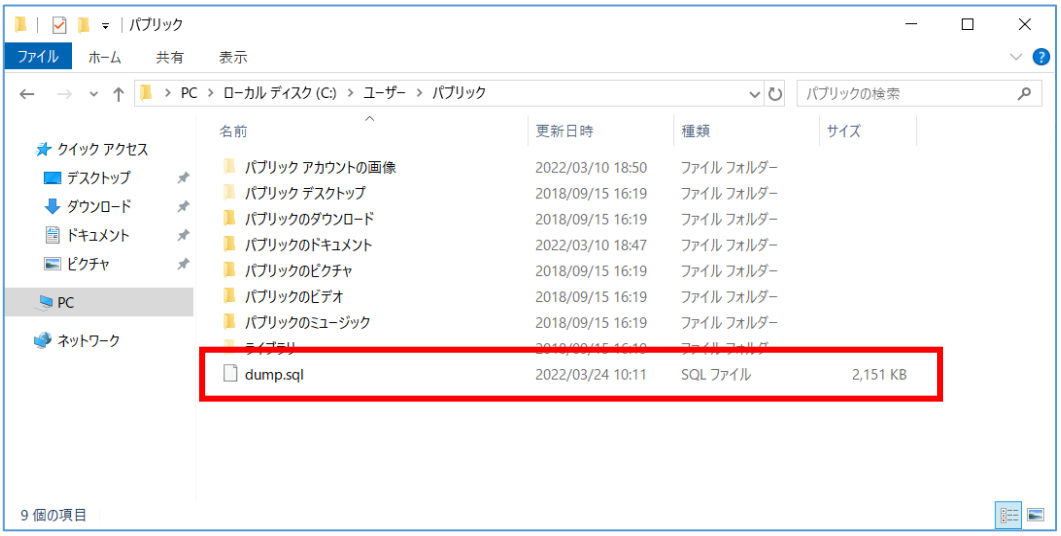
以降、本書ではデータベース名を上記として記載します。データベース名が異なる場合は読み替えて実施ください。



(ウ)「Enter password」にデータベースのユーザーのパスワードを入力し、Enter キーを押下します。



(3). 指定した出力先にバックアップファイルが作成されていることを確認します。



4.2.2　MSSQL のバックアップ取得

(1). 以下 URL より、SQL Server Management Studio をダウンロードし、サーバーへインストールしてください。

<SQL Server Management Studio ダウンロードサイト>

https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms

※インストール後、再起動が要求された場合は再起動が必要です。

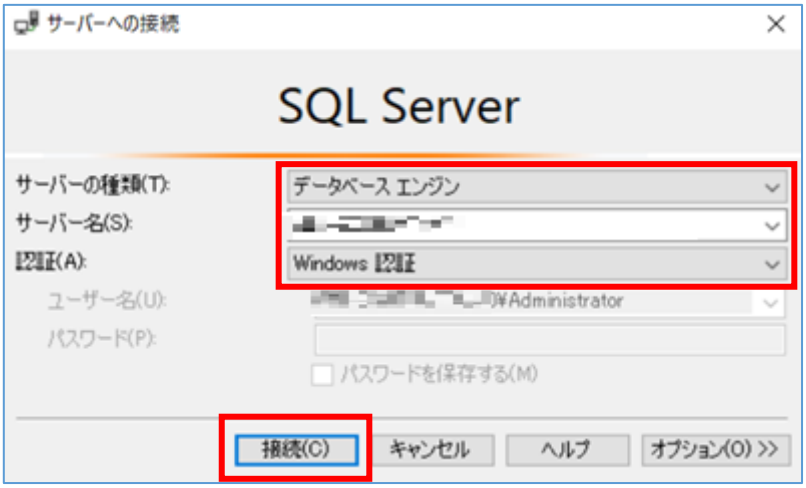
(2).「Microsoft SQL Server Management Studio」を起動します。

※初めて起動する場合、起動に少々お時間がかかります。

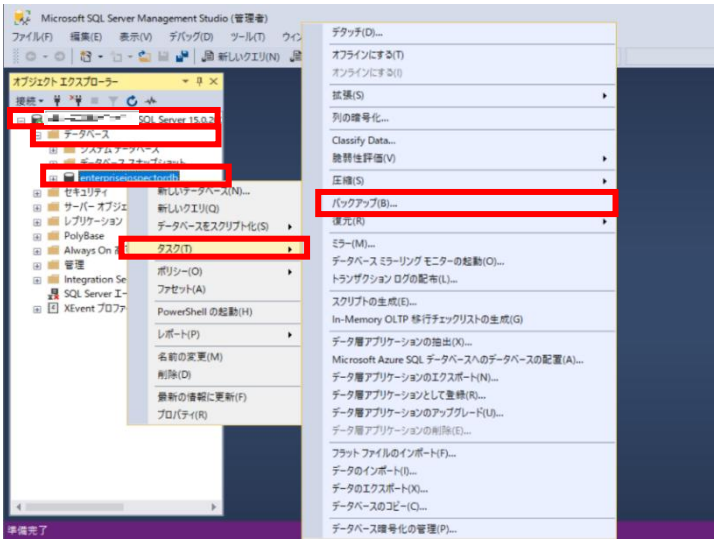
(3). サーバーへの接続画面で、以下の項目を確認して[接続]ボタンをクリックします。

※本手順は Microsoft SQL Server Management Studio 19 にて作成しております。異なるバージョンをご利用の場合は読み替えて実施ください。

サーバーの種類	データベースエンジン
サーバー名	EI サーバー名
認証	Windows 認証

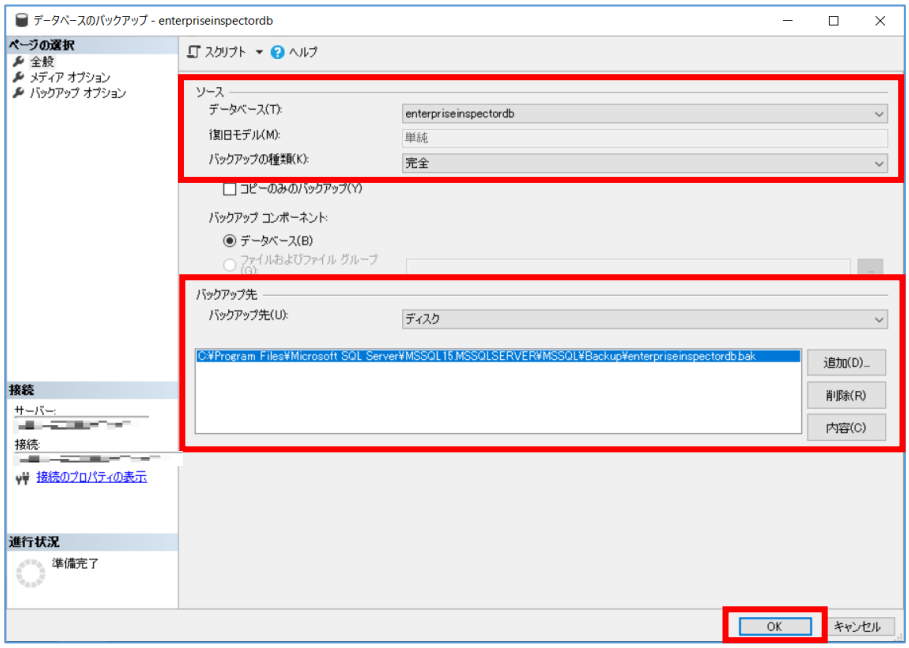


(4). オブジェクトエクスプローラーより、[インスタンス名]-[データベース]-[enterpriseinspectordb]へ移動します。「enterpriseinspectordb」を右クリックし、[タスク]-[バックアップ]をクリックします。
※データベース名が異なる場合は読み替えて実施ください。

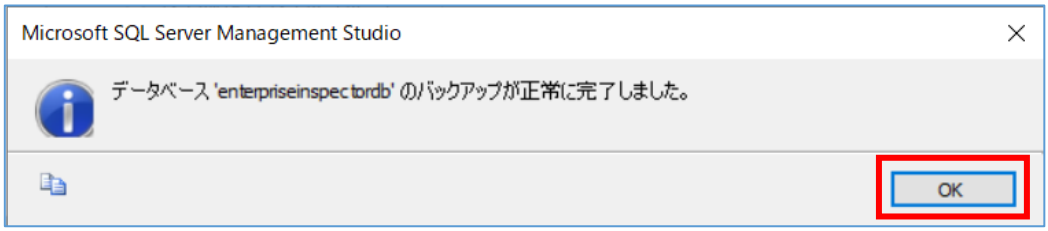


(5). データベースのバックアップ画面で、以下の通り設定し、[OK]ボタンをクリックします。

データベース	enterpriseinspectordb
バックアップの種類	完全
バックアップ先	ディスク



(6). 以下のメッセージが表示されたらバックアップは正常に終了しています。
[OK]ボタンをクリックして、閉じます。



※「アクセスが拒否されました」といったエラーが出力された場合は、バックアップファイルの出力先にアクセス権限があるかご確認ください。

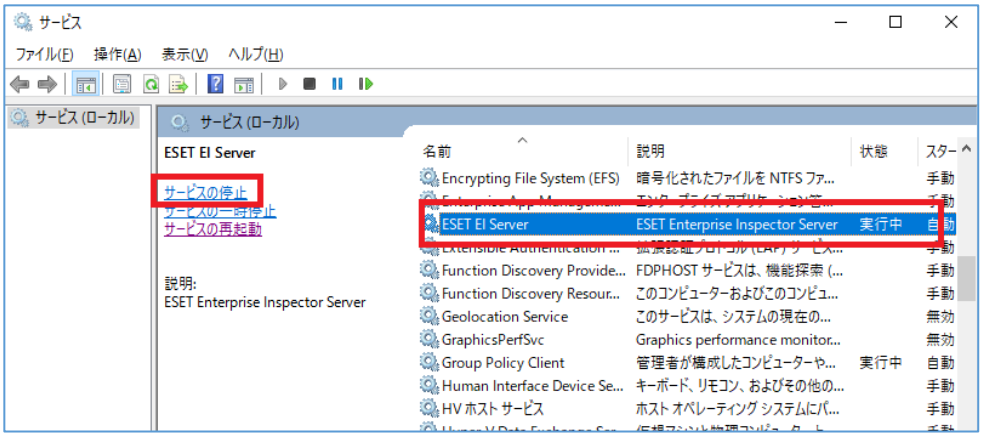
(7). 手順 5 で作成したバックアップファイルが指定の場所に格納されていることを確認します。

5. MySQL のバージョンアップ【EI on-prem 側作業】

MSSQL を使用して EI Server を構築している場合は、「6. EI Server のバージョンアップ【EI on-prem 側作業】」に進んでください。

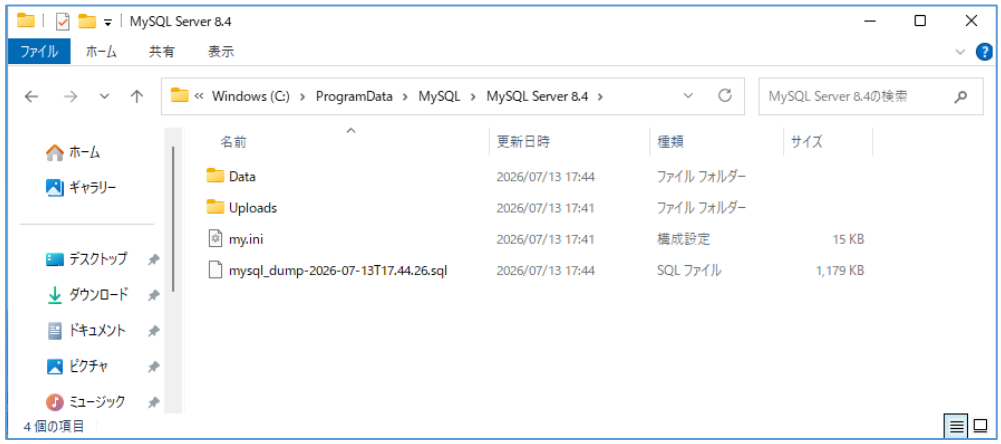
5.1 MySQL のバージョンアップ

(1). 「4.1 EI Server のサービス停止」を参考に EI Server サービスを停止します。



(2). C:¥ProgramData¥MySQL¥MySQL Server (バージョン番号)¥my.ini をテキストエディタで開きます。

※「ProgramData」は隠しフォルダのため、「表示」タブより「隠しファイル」にチェックを入れて表示させてください。



(3). my.ini ファイル内の以下の設定項目の記述を次のように変更します。

[my.ini]ファイル

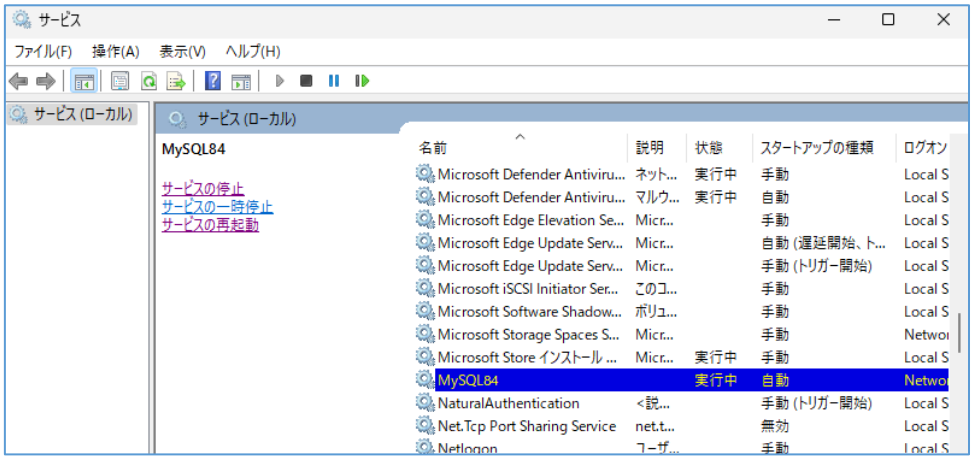
変更前

authentication_policy=mysql_native_password,,

変更後

authentication_policy=mysql_native_password,,

(4). MySQL サービスを再起動します。



※MySQL サービスが正常に再起動しない場合は、my.ini の記述が正しいか確認してください。

(5). 認証プラグインを変更します。

>mysql -h localhost -u root -p

mysql> SELECT user, host, plugin FROM mysql.user;

※出力結果の plugin 列が caching_sha2_password の場合、以下の変更は不要です。

mysql> ALTER USER 'ei_server'@'%' IDENTIFIED WITH caching_sha2_password BY 'password';

mysql> ALTER USER 'root'@'localhost' IDENTIFIED WITH caching_sha2_password BY 'password';

※上記で'password'に入力したパスワードに更新されます。

mysql> SELECT user, host, plugin FROM mysql.user;

※出力結果の plugin 列が caching_sha2_password になったことを確認します。

mysql> quit

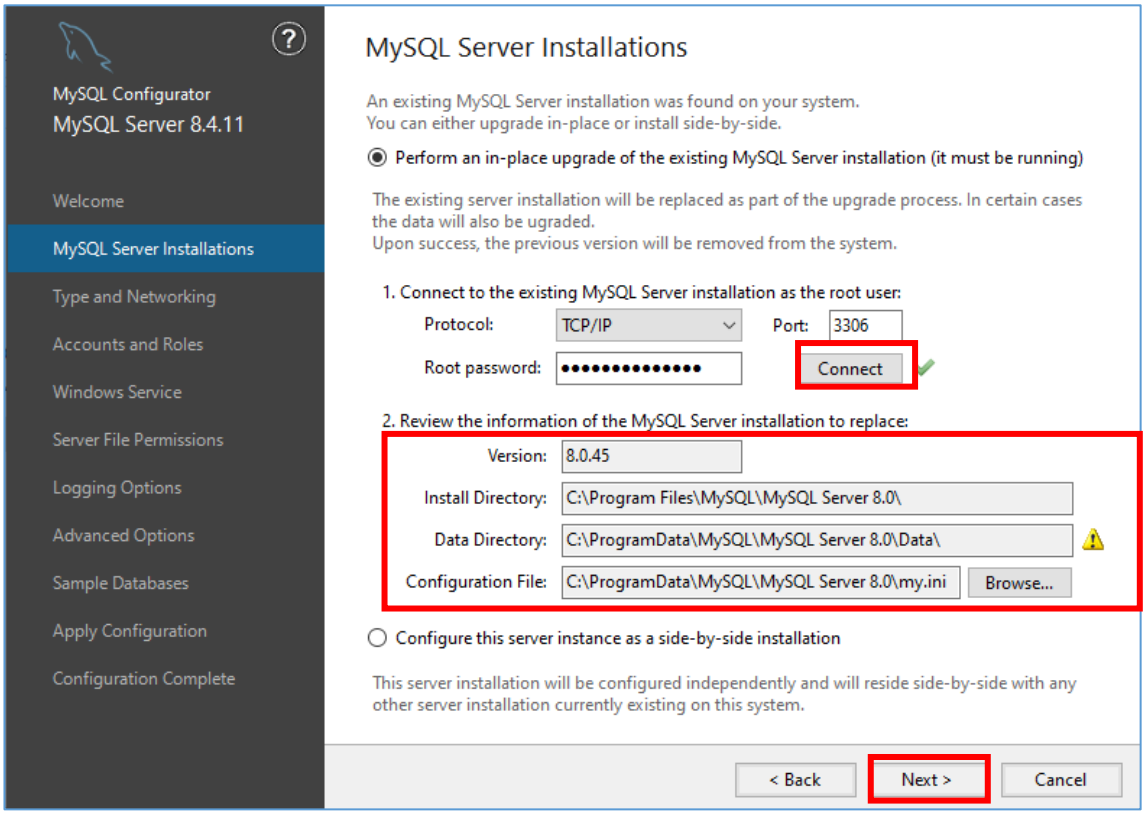
(6). 「Microsoft Visual C++ 2015-2022 Redistributable Package (x64)」がインストールされていない場合は、以下 URL よりダウンロード、およびインストールを完了させてください。

https://learn.microsoft.com/ja-jp/cpp/windows/latest-supported-vc-redist?view=msvc-170

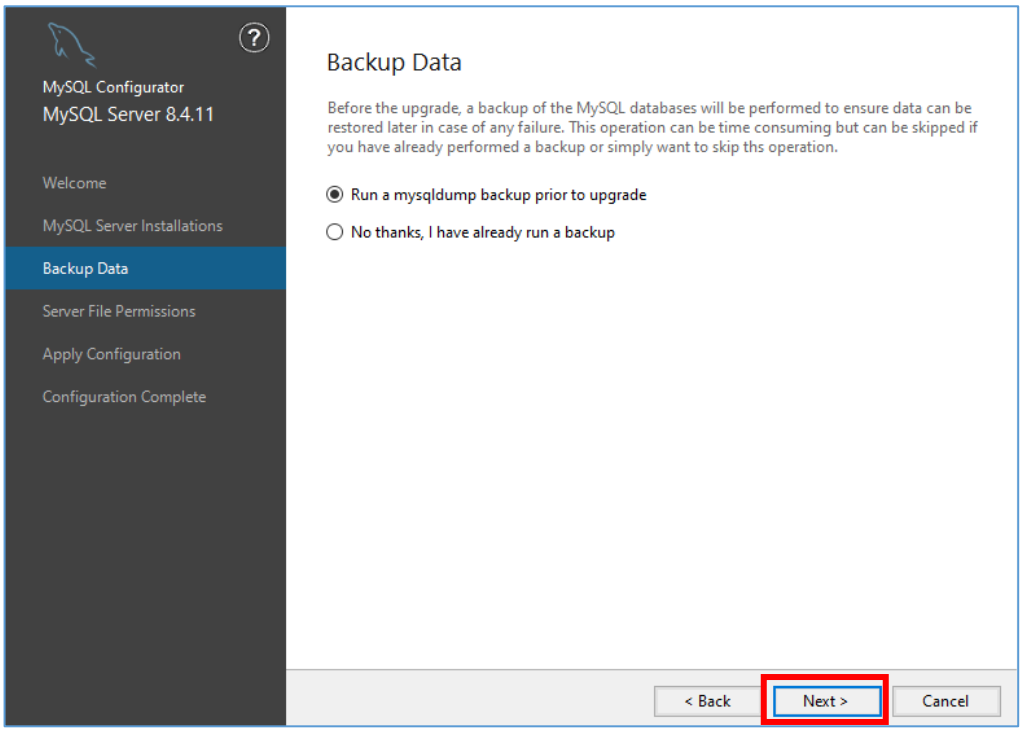
(7). 以下 URL より、MySQL のインストーラー(mysql-8.4.11-winx64.msi)をダウンロード、およびインストールを開始します。

https://dev.mysql.com/downloads/mysql/8.4.html

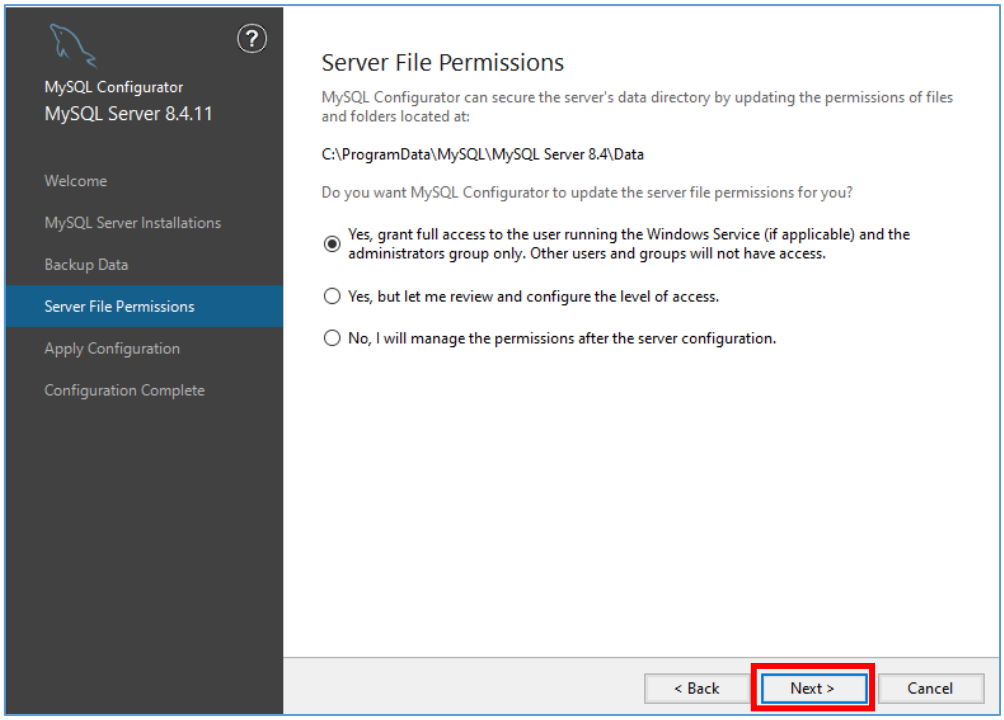
(8). MySQL Server Installation 画面で root ユーザーのパスワードを入力し、[Connect]をクリックします。「Review the information of the MySQL Server installation to replace」にバージョン等が表示されたことを確認して、[Next]をクリックします。



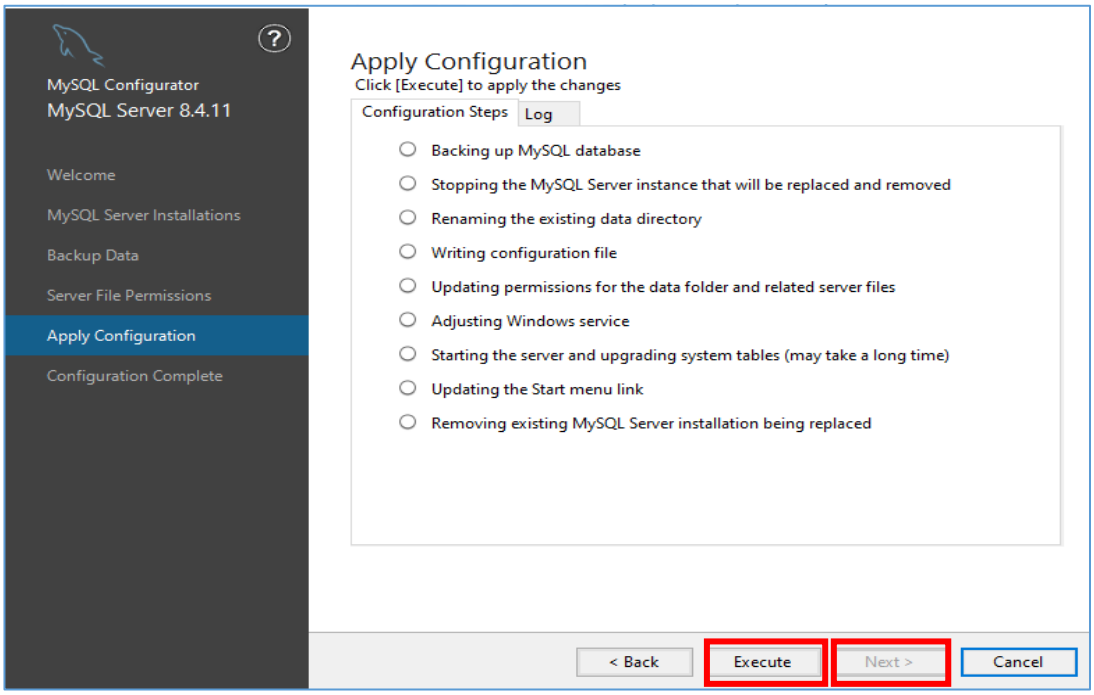
(9). Backup Data 画面で、[Run a mysqldump backup prior to upgrade]を選択し、[Next]をクリックします。



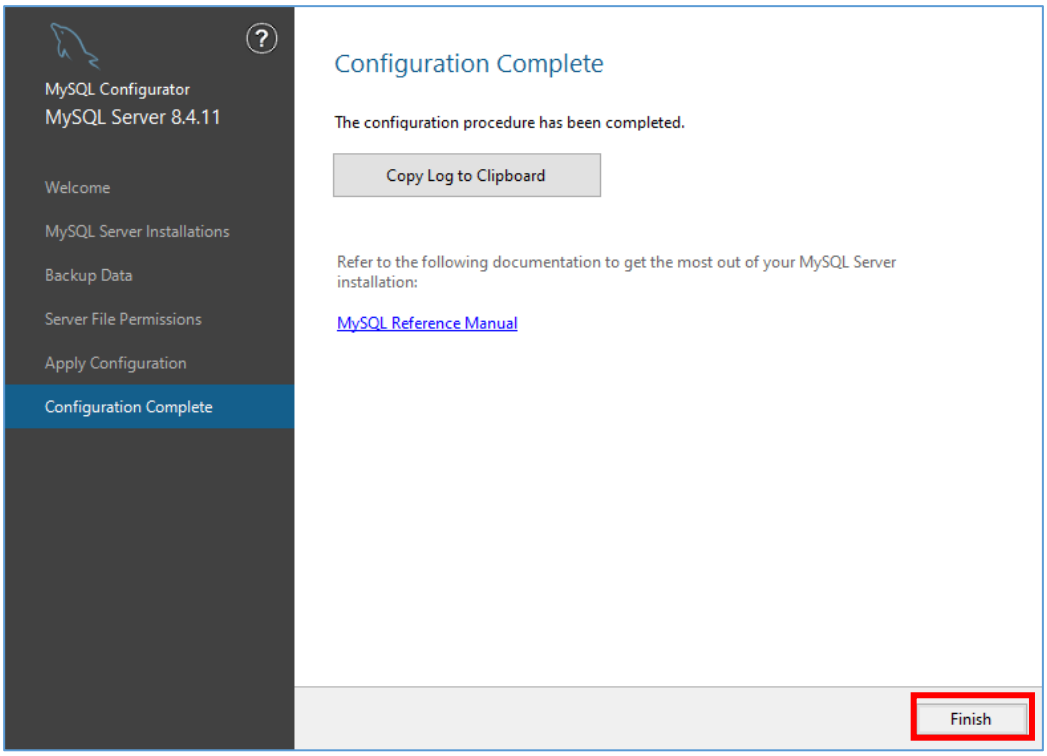
(10).Server File Permissions 画面で既定値のまま [Next]をクリックします。



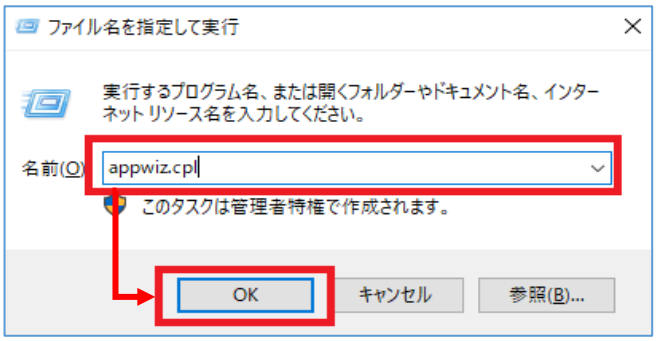
(11).Apply Configuration 画面で、[Execute]をクリックし、すべての項目にチェックが入ったことを確認して、[Next]をクリックします。



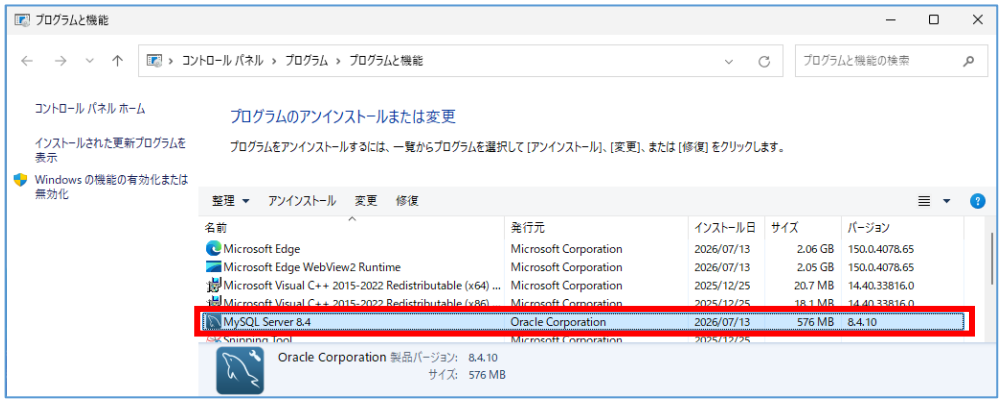
(12). Configuration Complete 画面で [Finish]をクリックします。



(13). 「Windows キー」＋「R」でファイル名を指定して実行させるウィンドウを開き「appwiz.cpl」と入力し、「OK」をクリックします。

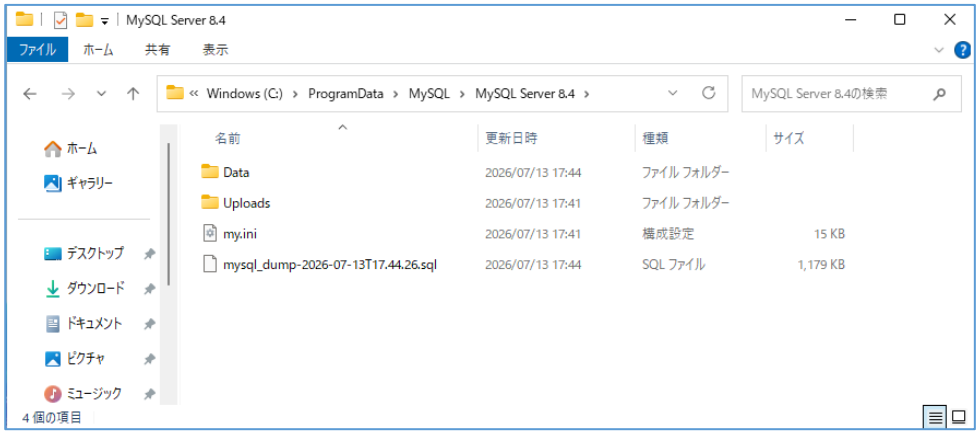


(14). 「MySQL Server 8.4」へバージョンが上がっていることを確認します。



(15). C:¥ProgramData¥MySQL¥MySQL Server (バージョン番号)¥my.ini をテキストエディタで開きます。

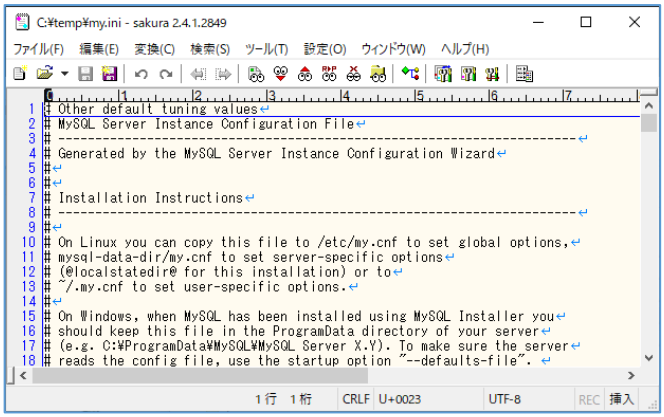
※「ProgramData」は隠しフォルダのため、「表示」タブより「隠しファイル」にチェックを入れて表示させてください。



(16). my.ini ファイル内の以下の設定項目の記述を以下のように変更します。

存在しない設定値は追記してください。また、my.ini ファイルを編集する際、テキストエディタは Windows のメモ帳以外のエディタを使用します。

※追記済みの内容であれば対応は不要です。



[my.ini]ファイル

***** Group Replication Related *****

max_connections=300

※デフォルトでは以下設定項目の記載が無いため、[mysqld]セクションの最終行に値を追記します。

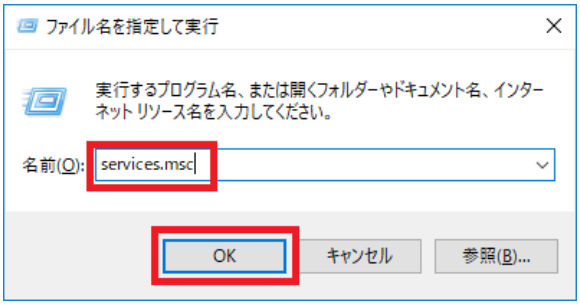
wait_timeout=900

※設定値の詳細は下記をご確認ください。

https://support.eset.com/en/kb8597-how-to-create-dedicated-partition-on-mysql-server-for-eset-inspect-on-prem

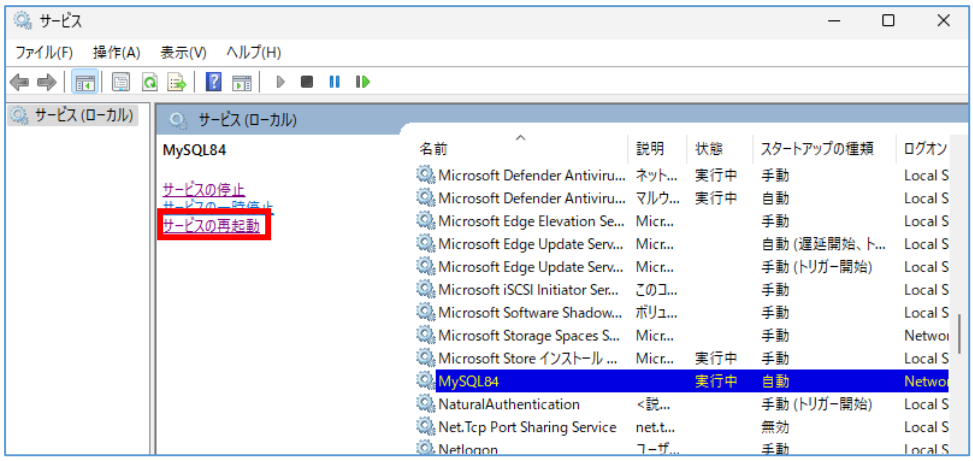
(17). my.ini を保存してテキストエディタを閉じます。

「Windows キー」＋「R」でファイル名を指定して実行させるウィンドウを開き「services.msc」と入力し、「OK」をクリックします。



(18). MySQL84 を選択し、[サービスの再起動]をクリックします。

MySQL84 サービスの状態が、実行中であることを確認します。



※MySQL サービスが正常に再起動しない場合は、my.ini の記述が正しいか確認してください。

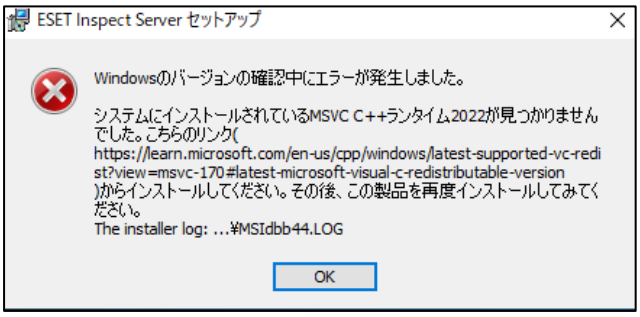
6. EI Server のバージョンアップ【EI on-prem 側作業】

6.1 EI Server のバージョンアップ

(1). EI Server V3.2 のインストーラー（ei_server_nt64.msi）を使用し、インストールを開始します。

※インストーラー実行時に、画像のようなエラーが出た場合はポップアップの内容を確認のうえ、「Microsoft Visual C++」のインストールをお願いいたします。

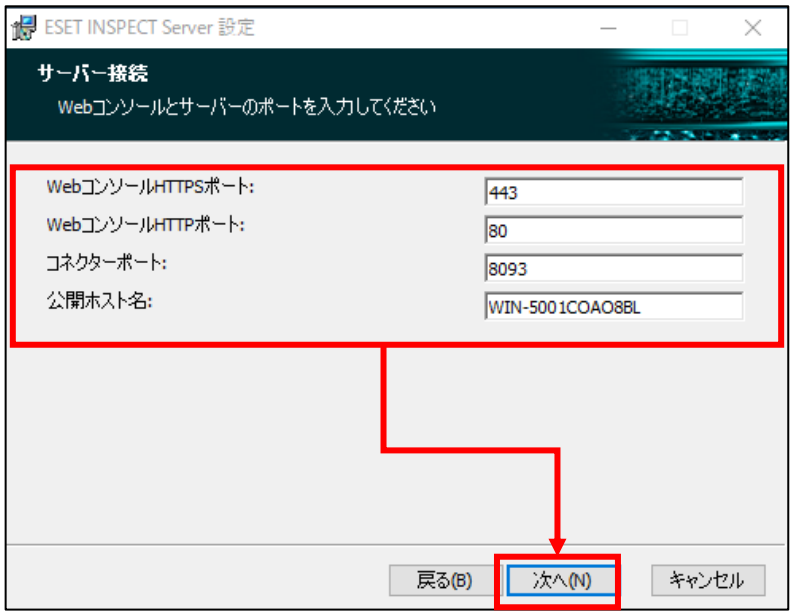
https://learn.microsoft.com/ja-jp/cpp/windows/latest-supported-vc-redist?view=msvc-170



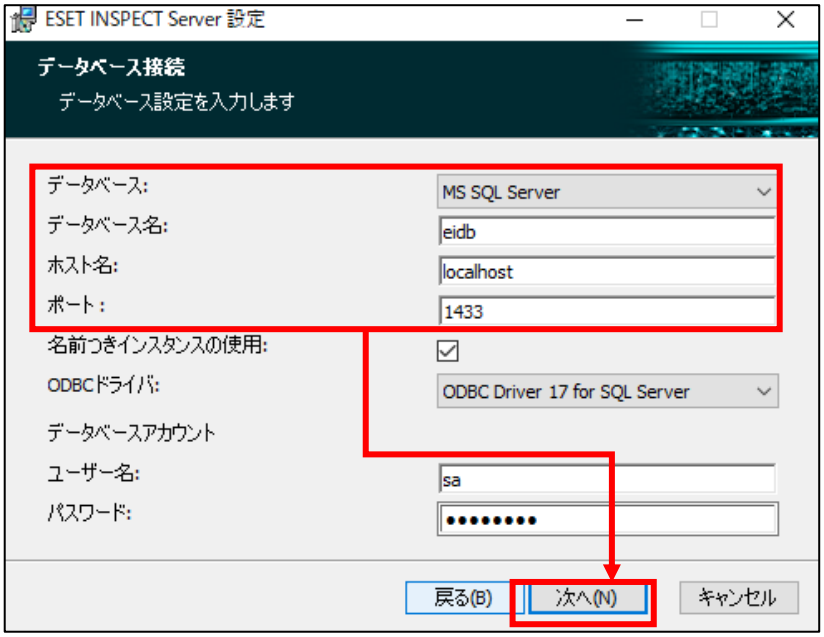
(2). ESET Inspect Server セットアップ画面で、[次へ(N)] をクリックします。



(3). サーバー接続画面で、Web コンソールおよびコネクターポート情報が入力されていることを確認し、[次へ(N)]をクリックします。

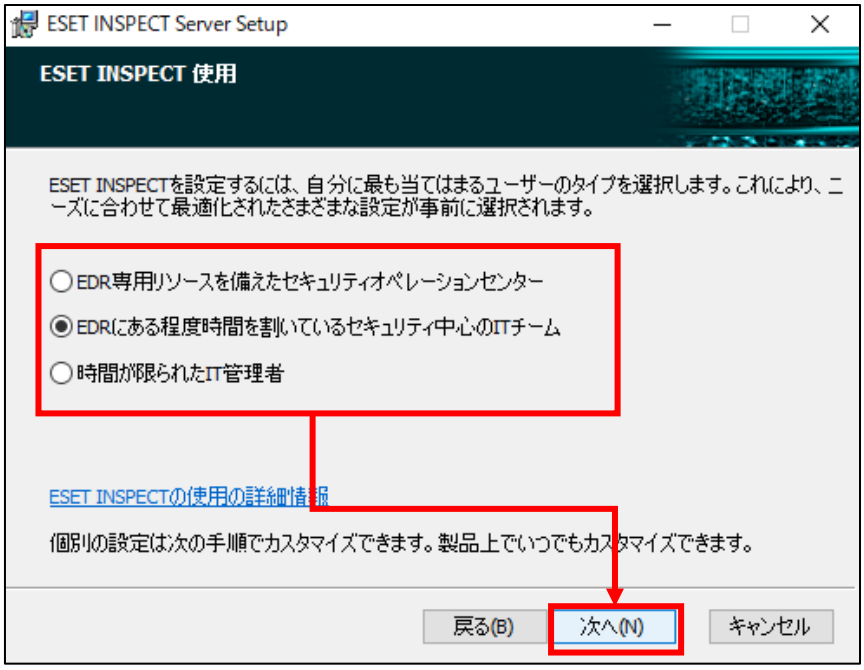


(4). データベース接続画面で、データベースの接続情報が入力されていることを確認し、[次へ(N)]をクリックします。

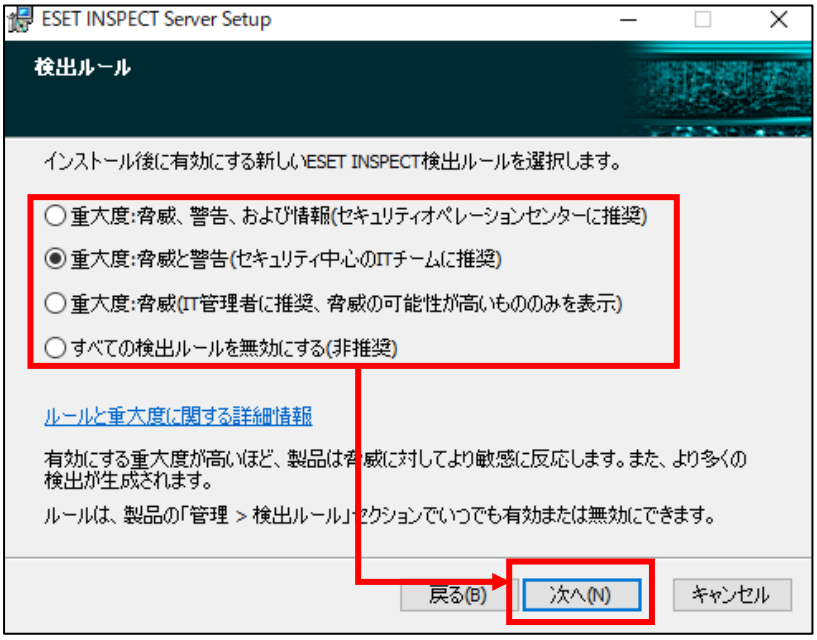


(5). ESET INSPECT 使用画面で、あてはまるユーザータイプを指定し、[次へ(N)]をクリックします。

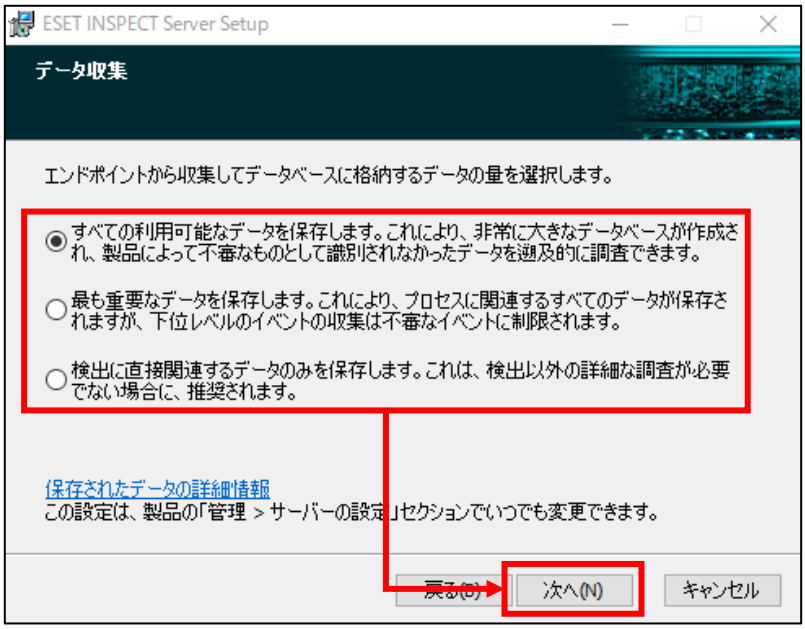
※本画面が表示されない、または、画面の表示順序が異なる場合がございます。



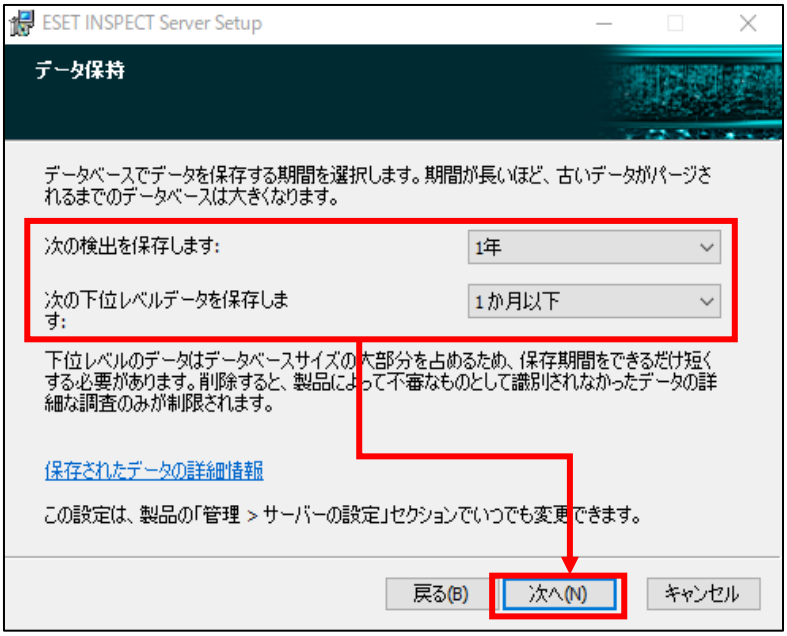
(6). 検出ルール画面で、4 つの重大度レベルに基づいて有効にするルールを選択します。本手順で選択した内容により、EI on-prem バージョンアップ後に既定で有効になるルールが変わります。



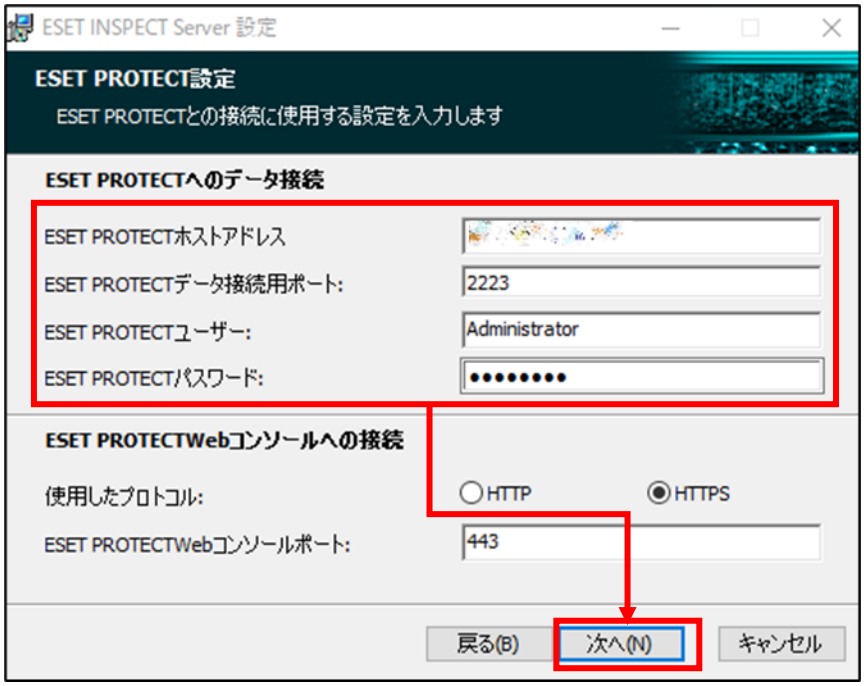
(7). データ収集画面では、EI on-prem でのデータ収集オプションを設定します。
本手順で選択した内容にてデータがデータベースに保存される方法が設定されます。



(8). データ保持画面では、EI on-prem でのデータの保持期間を選択します。
本手順では、検出データや下位レベルデータの保持期間を設定します。
※本設定は EI on-prem バージョンアップ後にも設定変更が可能です。



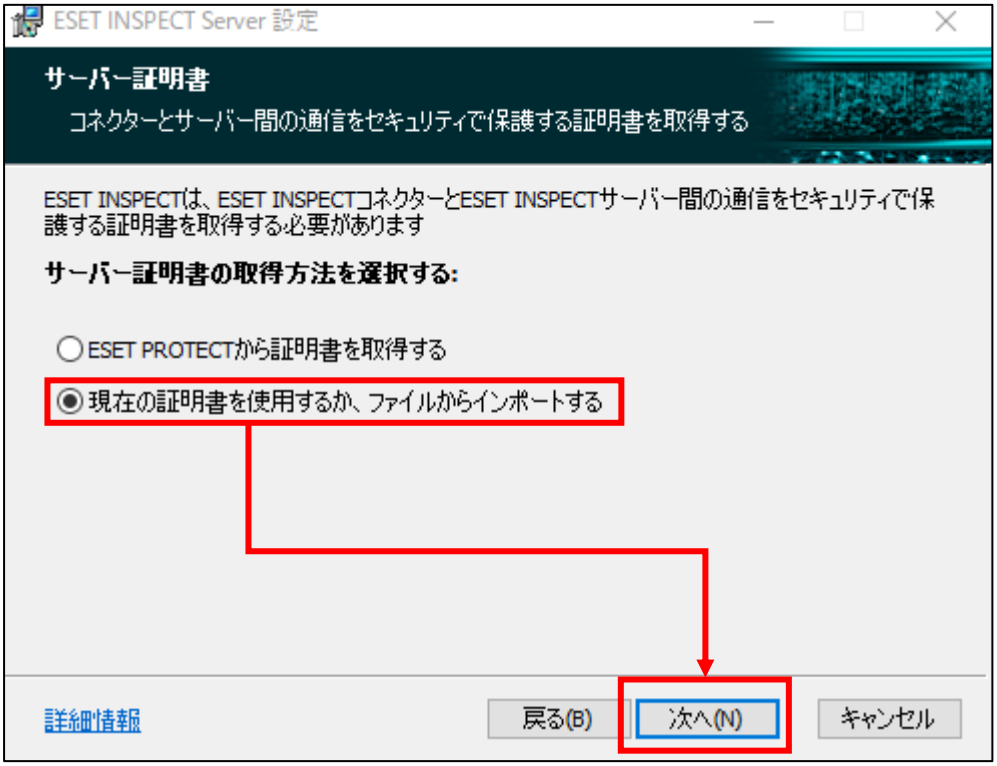
(9). ESET PROTECT 画面で、EP on-prem の接続情報が入力されていることを確認し、[次へ(N)]をクリックします。



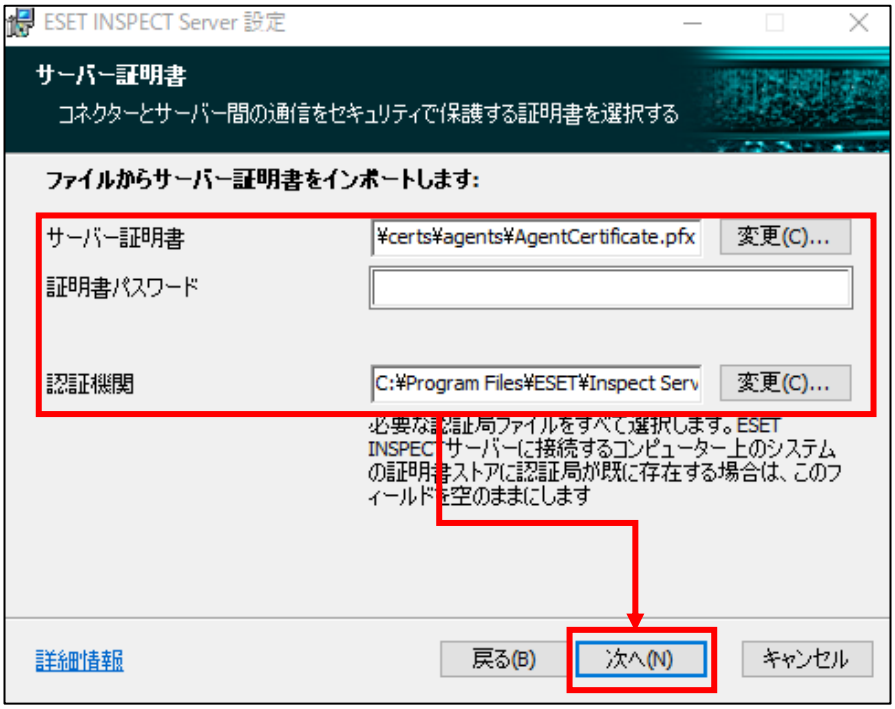
(10). 接続先 ESET PROTECT... ダイアログが表示されるので、[はい（Y)] を選択します。



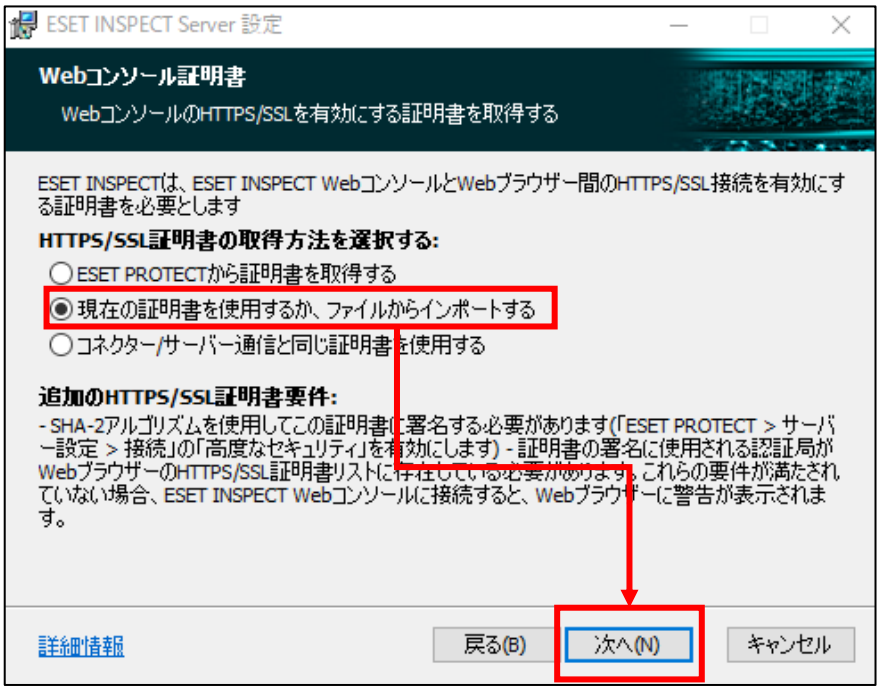
(11). サーバー証明書画面で、[現在の証明書を使用するか、ファイルからインポートする]を選択し、[次へ(N)]をクリックします。



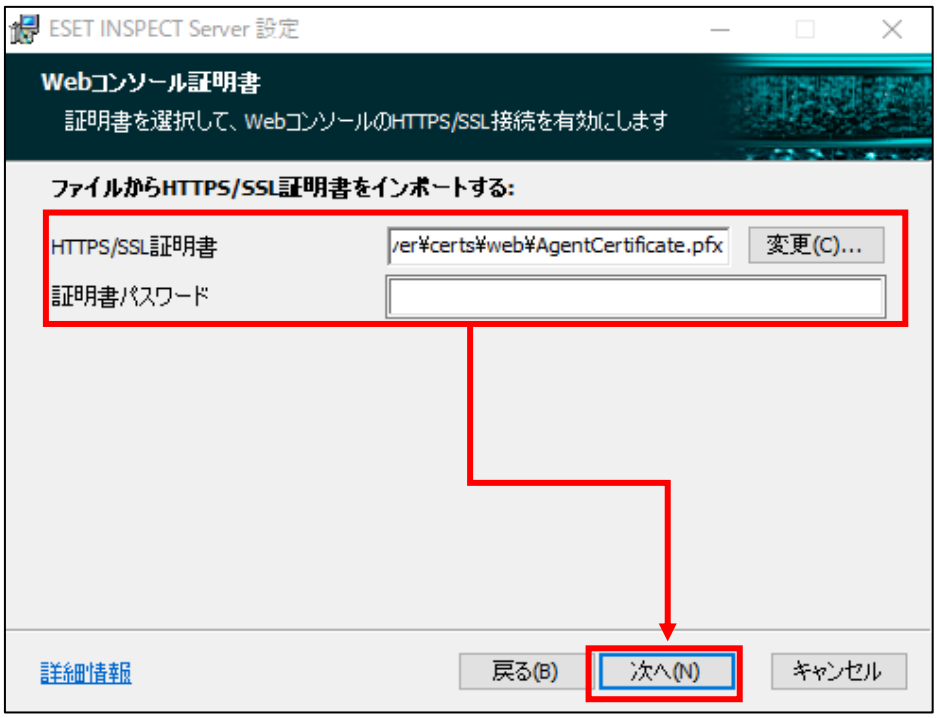
(12). サーバー証明書画面で、証明書情報が入力されていることを確認し、[次へ(N)]をクリックします。



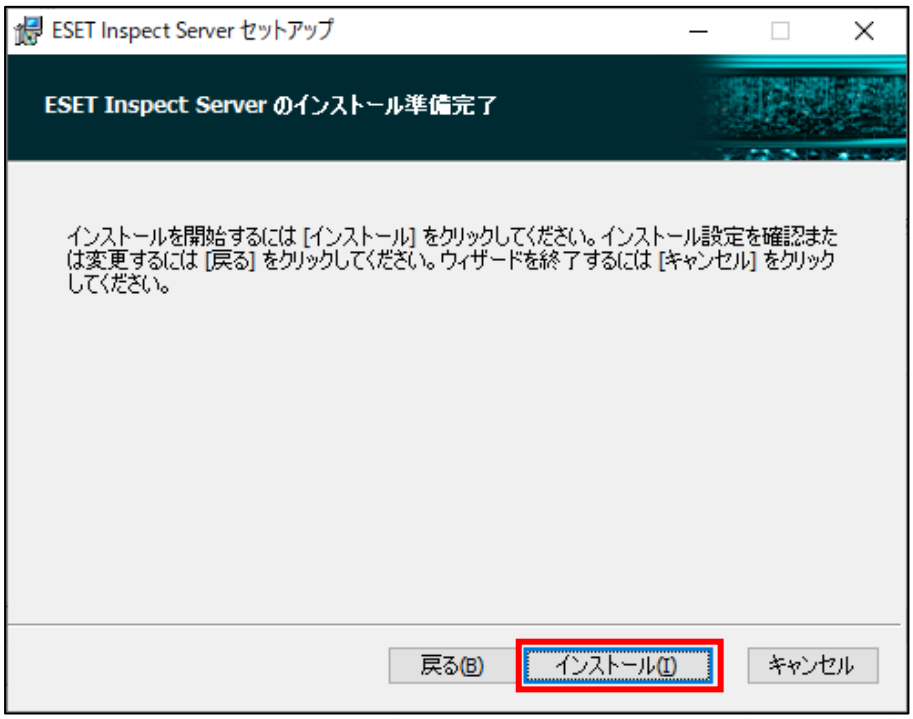
(13). Web コンソール証明書画面で、[現在の証明書を使用するか、ファイルからインポートする]を選択し、[次へ(N)]をクリックします。



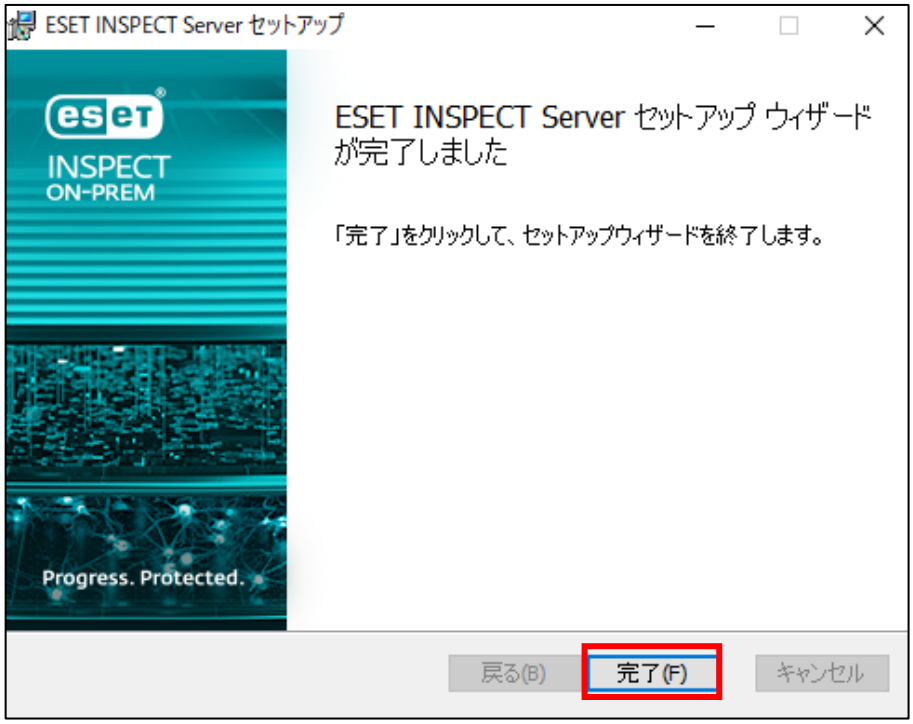
(14).Web コンソール証明書画面で、証明書情報が入力されていることを確認し、[次へ(N)]をクリックします。



(15).ESET Inspect Server のインストール準備完了画面で、［インストール(I)］をクリックします。



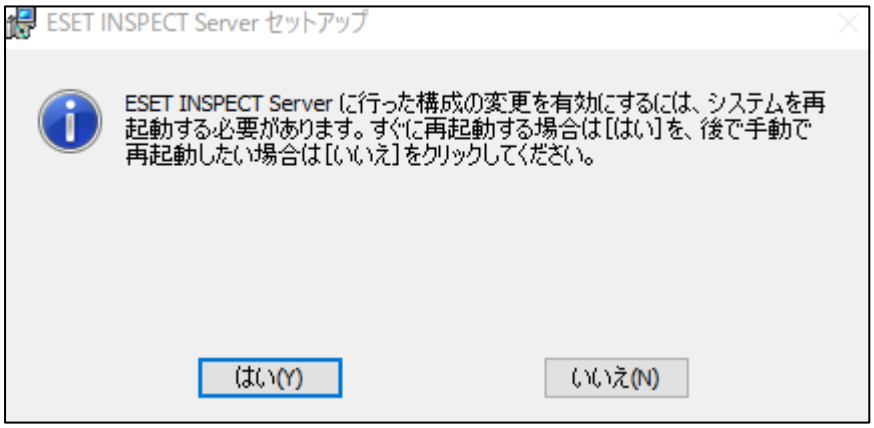
(16).ESET INSPECT Server セットアップ画面で、［完了(F)］をクリックし、EI Server のバージョンアップを終了します。



(17).再起動を実施してください。

すぐに実施する場合は[はい(Y)]、任意のタイミングで実施したい場合は「いいえ(N)」をクリックします。

※下記画像が表示されない場合もございます。

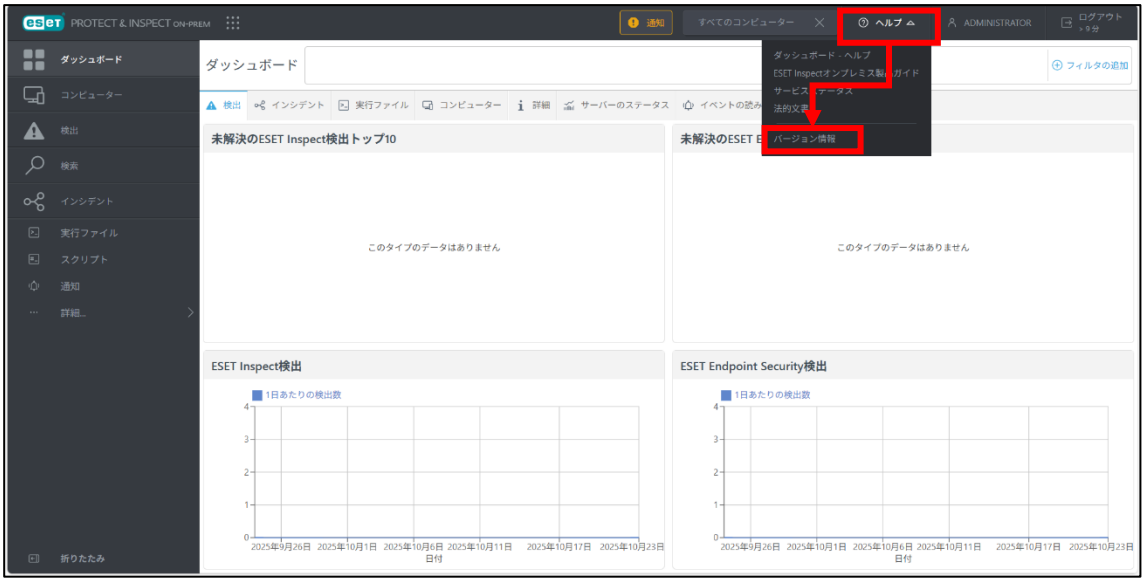


(18).[https://(EI Server を導入したサーバーの IP アドレス)]にアクセスします。

ユーザー名とパスワードを入力し、言語(日本語)を選択して、[ログイン]をクリックします。



(19).コンソール画面の右上の「ヘルプ」から「バージョン情報」をクリックします。



(20).EI on-prem が V3.2 になっていることを確認します。

7. EI Connector のバージョンアップ【EP on-prem 側作業】

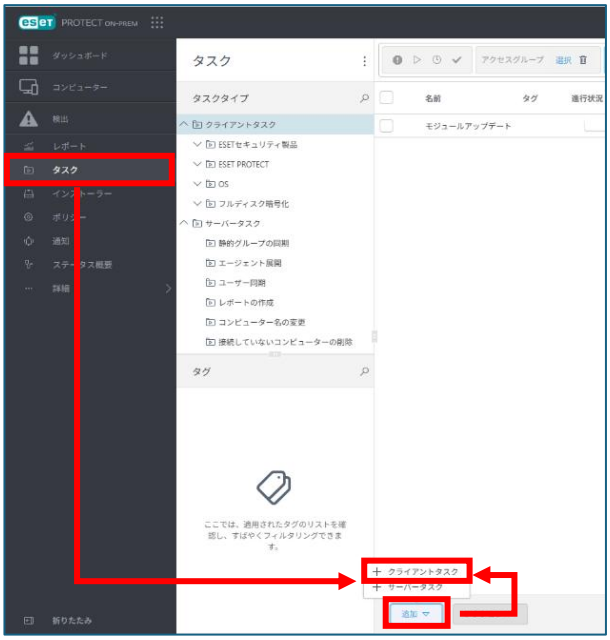
7.1 クライアントタスクによる EI Connector のバージョンアップ

(1). https://(EP on-prem の IP アドレス)/era にアクセスし、EP Web Console に管理者権限のあるアカウントでログインします。

「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、言語(日本語)を選択して、「ログイン」をクリックします。

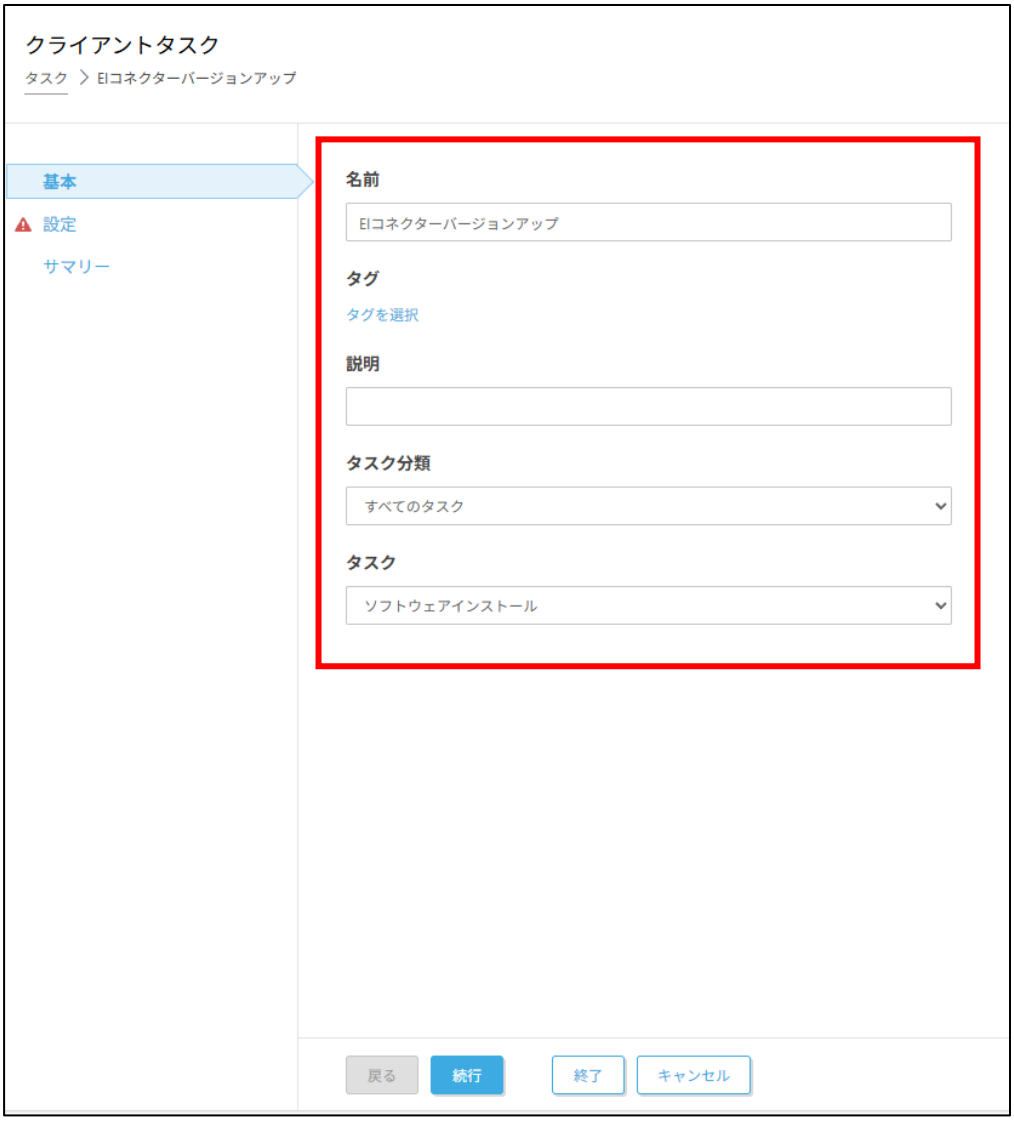


(2). [タスク]->[追加]->[クライアントタスク]にて次の通り設定し、[終了]をクリックします。



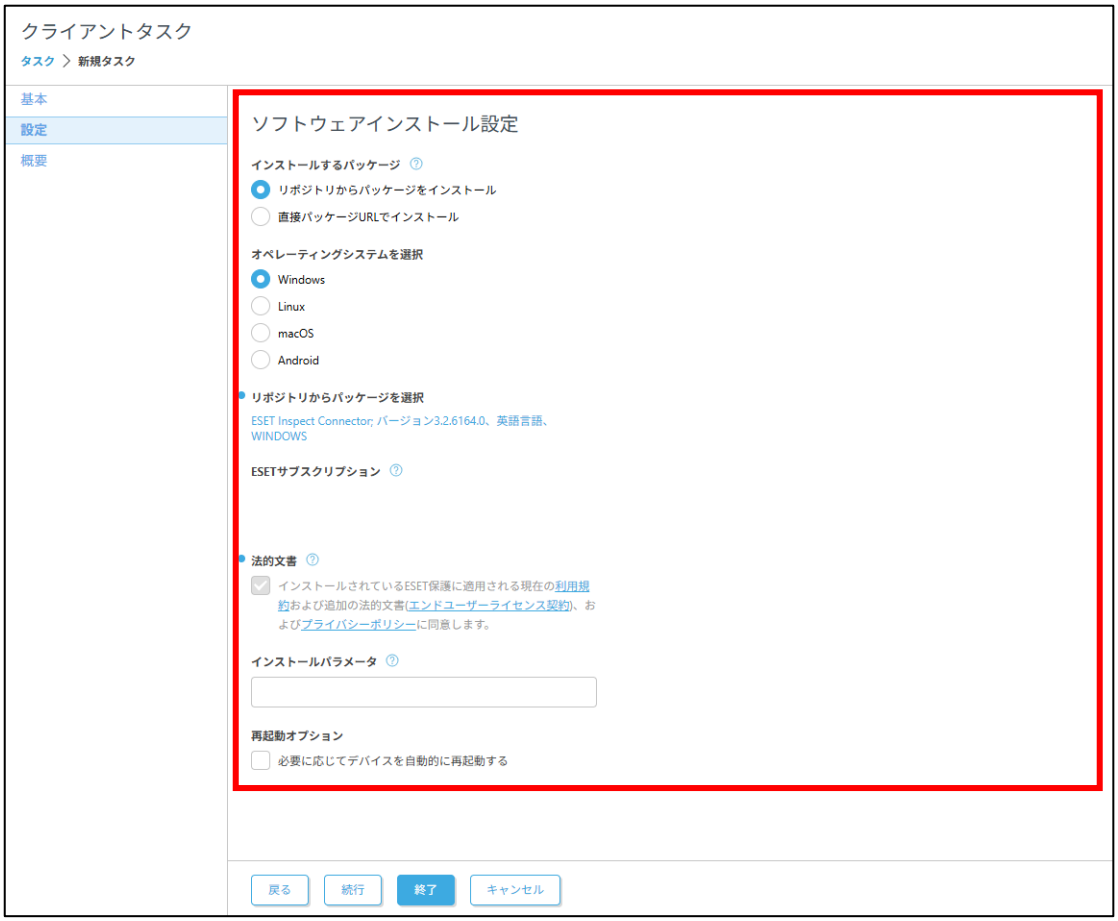
■[基本]セクション

名前：	任意の名前を設定します
タグ：	任意のタグを設定します
説明：	任意の説明を記載します
タスクの分類：	すべてのタスク
タスク：	「ソフトウェアインストール」を選択します



■[設定]セクション

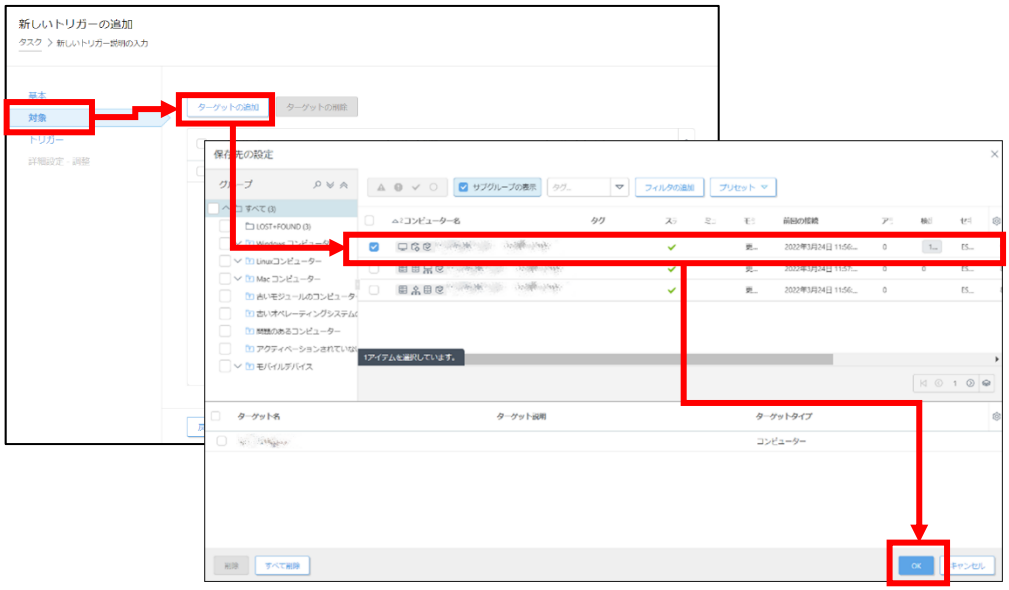
インストールするパッケージ	[リポジトリからパッケージをインストール]を選択します
オペレーティングシステムを選択	利用 OS を選択します
リポジトリからパッケージを選択	<製品を選択>：ESET Inspect Connector ※最新バージョンが選択されます
ESET サブスクリプション	登録した EI on-prem サブスクリプションを選択します
[エンドユーザーライセンス契約に同意し...]	チェックを入れます
インストールパラメータ	なし
必要に応じて自動的に再起動する	チェックなし



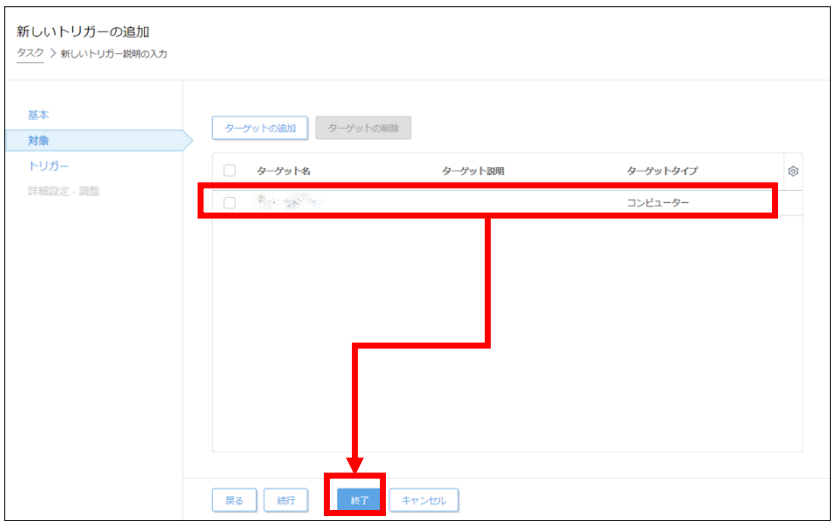
(3). [トリガーの作成]をクリックします。



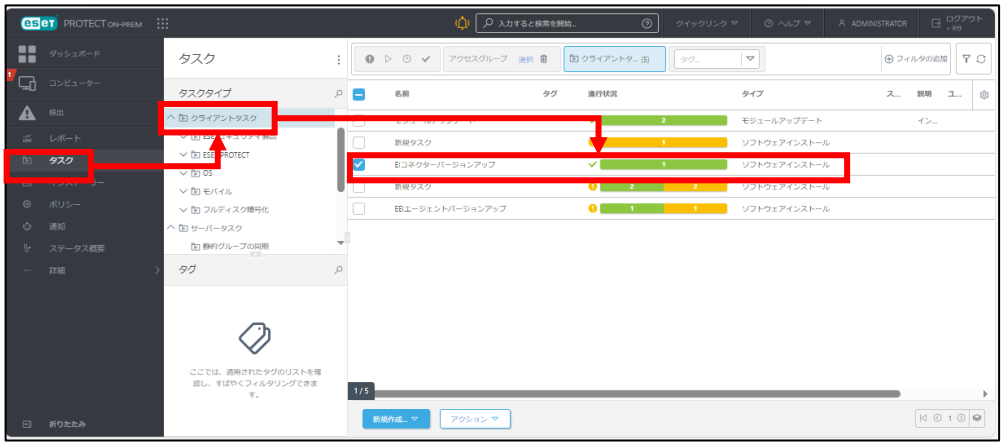
(4). [対象]セクションで、[ターゲットの追加]をクリックし、
EI Connector をバージョンアップする対象を選択後、[OK]をクリックします。



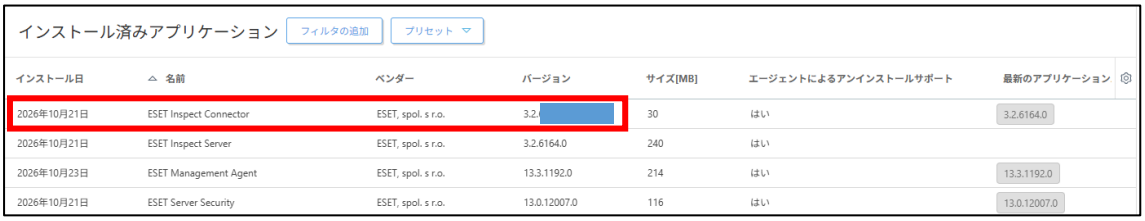
(5). [終了]をクリックします。



(6). 該当タスクの進捗状況が緑色になったらタスクは成功です。



(7). [コンピューター]より対象のコンピューターを選択して[詳細を表示]->[インストール済みアプリケーション]で「ESET Inspect Connector V3.2」にバージョンアップされていることをご確認ください。



以上でバージョンアップは完了です。